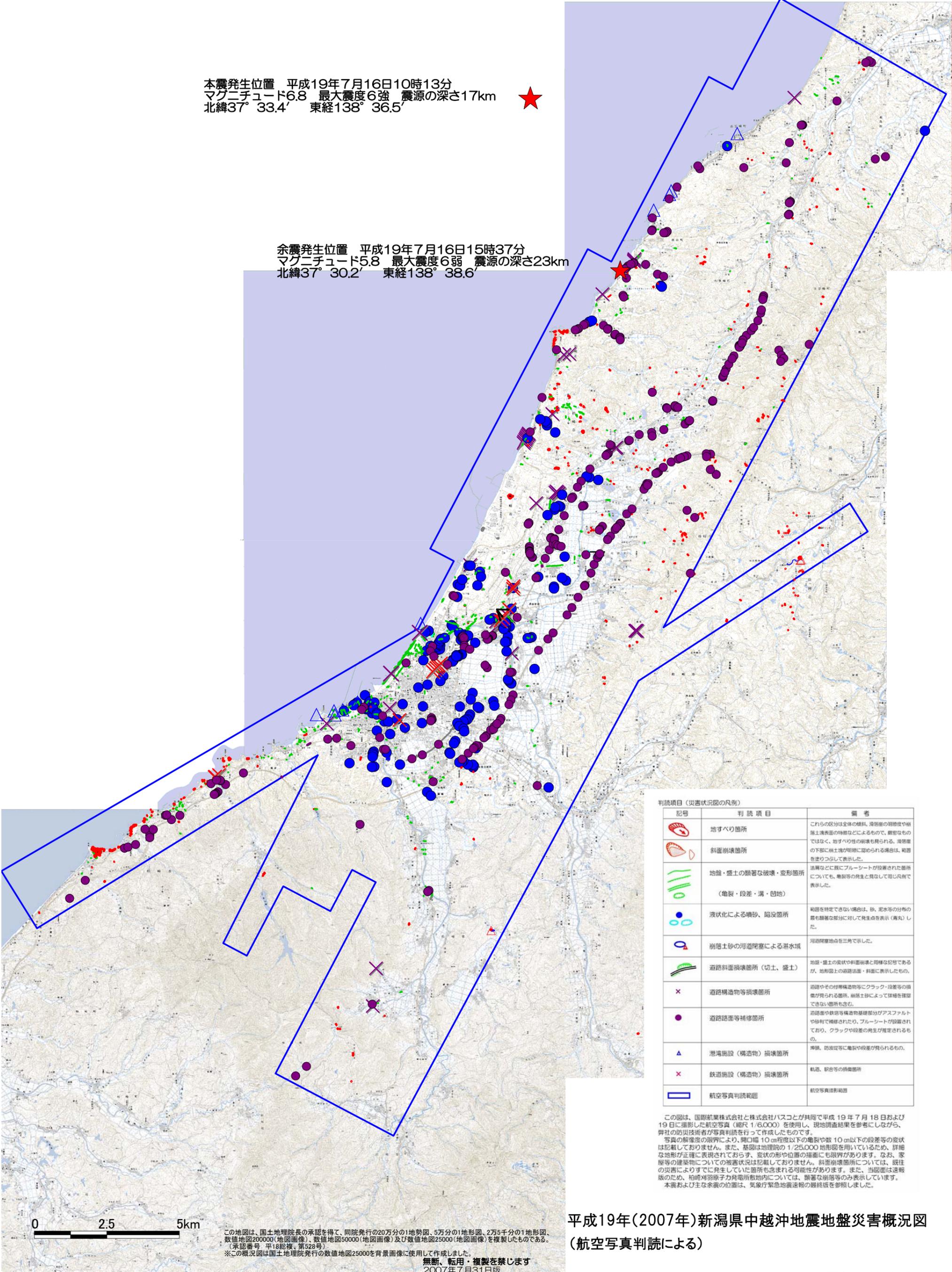




本震発生位置 平成19年7月16日10時13分  
 マグニチュード6.8 最大震度6強 震源の深さ17km  
 北緯37° 33.4' 東経138° 36.5'



余震発生位置 平成19年7月16日15時37分  
 マグニチュード5.8 最大震度6弱 震源の深さ23km  
 北緯37° 30.2' 東経138° 38.6'



判読項目（災害状況図の凡例）

記号	判読項目	備考
	地すべり箇所	これらの区分は全体の傾斜、局所的な弱層や崩落土壌表面の特徴などによるもので、厳密なものではなく、地すべり性の崩壊も見られる。崩壊層の下部に崩土塊が明確に認められる場合は、崩壊を定量的に示して表示した。
	斜面崩壊箇所 (亀裂・段差・溝・凹地)	法面などに底にブルーシートが設置された箇所についても、亀裂等の発生と見なして同じ凡例で表示した。
	液化化による噴砂、陥没箇所	陥没を特定できない場合は、砂、泥水等の分布の最も顕著な部分に対して発生点を表示（青丸）した。
	崩落土砂の河道閉塞による潜水域	河道閉塞地点を三角で示した。
	道路斜面崩壊箇所（切土、盛土）	地盤・盛土の変状や斜面崩壊と同様な記号であるが、地形図上の道路法面・斜面に表示したものを。
	道路構造物等損壊箇所	道路やその付帯構造物等にクラック・段差等の損傷が見られる箇所。崩落土砂によって詳細を確認できない箇所も含む。
	道路路面等補修箇所	道路面や鉄塔等構造物基礎部分がアスファルトや砂利で補修されたり、ブルーシートが設置されており、クラックや段差の発生が推定されるもの。
	港湾施設（構造物）損壊箇所	埠頭、防波堤等に亀裂や段差が見られるもの。
	鉄道施設（構造物）損壊箇所	軌道、駅舎等の損壊箇所
	航空写真判読範囲	航空写真判読範囲

この図は、国際航業株式会社と株式会社バスコが共同で平成19年7月18日および19日に撮影した航空写真（縮尺1/6,000）を使用し、現地調査結果を参考にしながら、弊社の防災技術者が写真判読を行って作成したものです。  
 写真の解像度の限界により、開口幅10cm程度以下の亀裂や数10cm以下の段差等の変状は記載しておりません。また、基図は地理院の1/25,000地形図を用いているため、詳細な地形が正確に表現されており、変状の形や位置の描画にも限界があります。なお、家屋等の建築物についての被害状況は記載しておりません。斜面崩壊箇所については、既往の災害によりすでに発生している箇所も含まれる可能性があります。また、当図面は速報版のため、柏崎刈羽原子力発電所敷地内については、顕著な崩壊等のみ表示しています。本震および主な余震の位置は、気象庁緊急地震速報の最終版を参照しました。

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震地盤災害概況図  
 (航空写真判読による)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図、5万分の1地形図、2万5千分の1地形図、数値地図20000(地図画像)、数値地図50000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。  
 (承認番号 平18総環 第528号)  
 ※この概況図は国土地理院発行の数値地図25000を背景画像に使用して作成しました。  
 無断、転用・複製を禁じます  
 2007年7月31日版